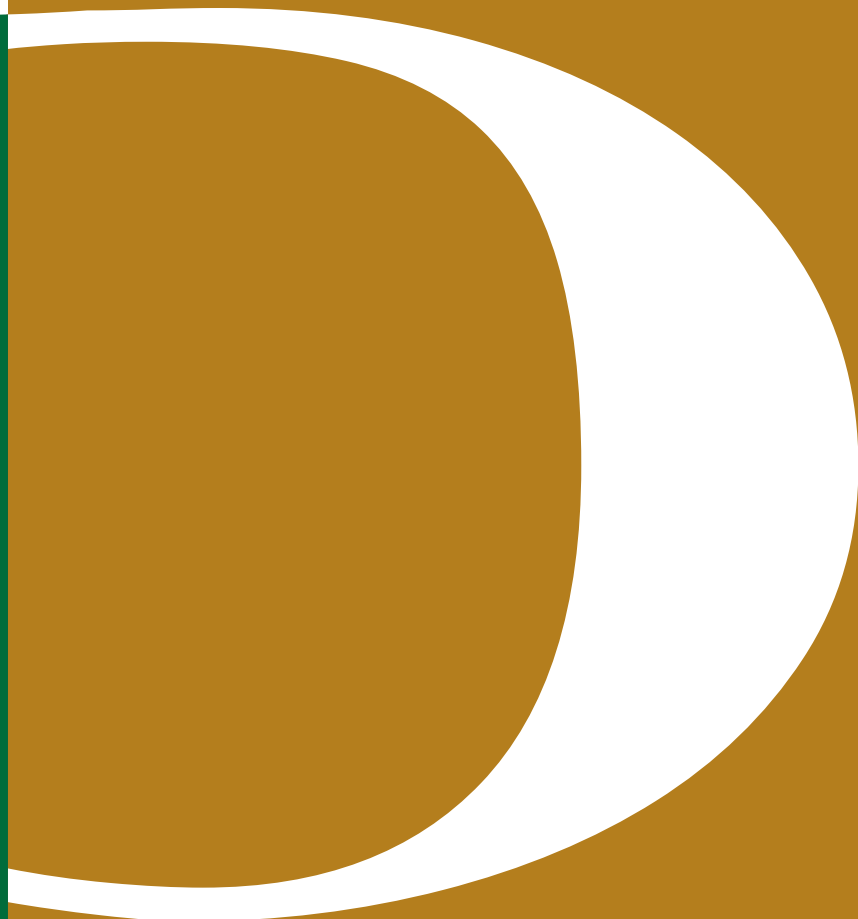


SALON

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール情報誌
Vol.162 2026年 10月号



THE PHOENIX HALL

CONTENTS

01 Prime Interview

03 Phoenix Presents

05 Pick Up

07 Essay

石上真由子

山口周 講演会

寺田悦子&渡邊規久雄 ピアノデュオ

SOM vocal ensemble #3 パウル・ヒンデミット《ミサ》

ボストリッジの『冬の旅』を読む

シューベルトについてジジエクに聞きそびれたこと：

ボストリッジの『冬の旅』 伊東信宏





多様で意欲的な自主企画をはじめとして、精力的な活動を展開し続けているヴァイオリン奏者、石上真由子。ソリストとして国内外のオーケストラと共演し、自身が主宰するEnsemble Amoibeの室内楽公演は京都・大阪・東京でたびたび開催。また、京都市交響楽団や大阪フィルハーモニー交響楽団などの公演に客演首席奏者としても出演するなど、まさに八面六臂の活躍を見せる俊英だ。ザ・フェニックスホールでは『フィリップ・グラス《浜辺のインシュタイン》』（2022年）、『「月に憑かれたピエロ」をめぐる冒険』（2025年）など印象的な公演に数多く出演してきた。

そんな石上が大阪でデビューリサイタルを行なったのが、16年前のザ・フェニックスホールだった。今回は名ピアニスト、北村朋幹との共演である。リサイタルを前に、石上に話を聞いた。（布施砂丘彦／音楽批評家）

今回のプログラムは、前半・後半ともに、短しながら凝縮された現代的な作品と、後期ロマン派的な大きなソナタが組み合わされています。これまで自主企画でも多くの印象的なプログラムを組まれてきましたが、今回はどのようにプログラムを決めたのでしょうか。

今回はまず会場と共演者が決まりました。このような場合は、「この人と、この場所で、この曲を弾きたい」という一曲を見つければいいから始めることが多いです。今回はまず、レスピーギを北村君と弾いてみたい、北村君のピアノでレスピーギを聴きたいという思いがありました。

そうすると、ピアニストの負担が増えて申し訳ないけれど、やはりリヒャルト・シュトラウスを合わせたくなる、と話したら、彼も「いいんじゃない」と、かなりあっさり賛成してくれました。

そのあと、今年は武満徹の没後30年でもあり、日本人の作品を入れたいという気持ちがありました。《悲歌》が《十一月の霧と菊の彼方から》のどちらかにしようと話していたんです。《十一月の霧と菊の彼方から》は、12月という季節にも合うと思いました。でも作品の内容を考えると、レスピーギやリヒャルト・シュトラウスの詩的な世界観には《悲歌》のほうが合うのではないかと思います。《悲歌》に決めました。シェーンベルクは、私が最後に渋々「うん」と言ったという感じです。

石上さんといえばシェーンベルクというイメージがありますが、なぜ《幻想曲》には渋々なのでしょうか？

私のなかに、勝手なシェーンベルク像があるからだと思います。《幻想曲》作品47は、本当に最晩年の作品です。紆余曲折を経て十二音技法を採り入れ、最晩年は十二音技法を使いながらも、とてもロマンティックで、むしろ調性的に音楽を構築していく。私は、その頃の作曲スタイルがすごく好きなんです。

先日Ensemble Amoibeで演奏した《弦楽三重奏曲》は、シェーンベルク作品のなかでも一番好きな作品です。その先にある《幻想曲》が、私にはどこかちぐはぐに感じられていました。

ただ、大作曲家が人生の最後に行き着く、よく分からない世界というものもありますよね。ベートーヴェンの最晩年にもあるような、混沌とした、ちぐはぐな、大御所だからこそ行き着く最後のひととき。人生の最後の時間に書かれたものには、そういうところがあるのかもしれないと、ここ数か月、改めてシェーンベルクを考えるなかで思うようになりました。

北村君には他の作品も提案しましたが、「もう一度弾きたい曲より、あえて嫌がっているシェーンベルクをやるほうがいいんじゃないか」と言われました。口説き落とされてしまったんです（笑）

今回の共演相手である北村朋幹さんのことは、石上さんから誘いされたのですか？

私から「ぜひ北村さんと一緒に」とお願いしました。初共演は、今年の1月、ザ・フェニックスホールでの『「月に憑かれたピエロ」をめぐる冒険』公演です。そこではヴェーベルンのデュオも一緒に弾きました。そのあとすぐに私からラブコールをして、昨年8月に私のリサイタル（「京都府文化賞」受賞記念リサイタル、京都府立府民ホールアルティ）で一緒しました。今回は3回目の共演になります。

端的に言えば、北村君は、私の人生で数えるほどしかいない「推し」の一人なんです。今回は「推しとの共演」で、私が一番幸せ、という感じです。

北村さんの魅力とはなんでしょうか。

言葉にしてしまうと陳腐ですが、彼は本当に丁寧な生き方をしている人だと思います。それは音楽に対しても、ほかのものに対してもそうです。彼の思考の仕方や、そこから出てくる音楽と言葉が、とても芸術家的です。

とても詩的な感性を持っていますが、単に主観的なだけでなく、どこか達観しているところ、客観視しているところもある。それをとても美しく描写する人です。

リハーサルも、時間があればいくらでもかけるタイプです。私も本来、そういうリハーサルが大好きです。北村君は、できるだけ長く作品と向き合い、共演者とのリハーサルでも、「なぜこう思うのか」「なぜこう弾くのか」「どう



2025年1月25日「月に憑かれたピエロ」をめぐる冒険公演より

考えているのか」という背景を擦り合わせることに妥協しません。だから、すごく安心感があります。同時に、とてもびりっとする相手でもあります。自分もきちんとしていかなければならない、自分の感性をもっと研ぎ澄ませなければならぬと、襟を正させてくれる相手です。

彼は音でもたくさん示してくれますが、言葉で話すときには、きちんと人を納得させる言葉で語らなければ、本当には納得してくれません。自分がどう考え、楽譜をどう見ているからこうしたいのか。どうしても通したいことについては、それを説明できる言葉を自分のなかに持たなければならぬ。そういう緊張感があります。

リハーサルをぜひ覗きたいと思ってしまいましたね。今回は前日からザ・フェニックスホールでリハーサルをされるようで、そのように濃密に作られた音楽を会場で聴けることはとても楽しみです。お客様に何かメッセージはありますか？

ティータイムコンサートなのに、かなり重量級のプログラムになってしまったと思います。昔から、せっかくコンサートができるなら、全力でやりたい放題やろうと思っていました。最近は自分もコンサートに行くようになり、「適度な長さや重量感というものもあるよな」と思うようになりました。今回のプログラムは、それほどパンパンではないはずですが、昼間なので、カレーとカツ丼を食べても、寝るまでにカロリーを消化する時間があるくらいの気持ちで、気楽に来てもらいたいです（笑）

石上真由子（いしがみ・まゆこ／ヴァイオリン）

日本音楽コンクール等、国内外で優勝・受賞多数。題名のない音楽会、NHKクラシック音楽館等メディア出演多数。東響、東京都響、読響、日本フィル、新日本フィル、京響、仙台フィル、大響、大阪フィル、関西フィル、ブラショフ国立響など、内外で多数のオーケストラと共演。長岡京室内アンサンブル、アンサンブル九条山メンバー。ボラリス国際音楽祭アドバイザー。Ensemble Amoibe主宰。Music Dialogue、CHANEL 室内楽、おんかつアーティスト。京都市芸術新人賞、音楽クリティック・クラブ賞、大阪文化祭賞、青山音楽賞、藤堂音楽賞受賞。日本コロムビアより「ヤナーチェク：ヴァイオリン・ソナタ」、「ブラームス：ピアノとヴァイオリンのためのソナタ第1番」、ALTUSより「ラヴェル：ツィガーヌ」、キングレコードより「ブルックナー&ミヨー」「他人の顔」、ワオンレコードより「二十四氣（平野一郎作曲）」好評発売中。令和6年度京都府文化賞受賞。令和7年度 京都府あげばの賞受賞。

www.mayukoishigami.com X @MayukoIshigami Instagram @mayukoishigamiviolin
Facebook https://www.facebook.com/IshigamiMayuko/

公演詳細

ティータイムコンサート186 石上真由子 ヴァイオリンリサイタル

2026年12月4日(金)14:00開演 *お菓子つき

指定席 ¥4,000 友の会会員 ¥3,600 ※残席わずか
学生(25歳以下) ¥1,000(ホールチケットセンターのみのお取り扱い)

■出演 石上真由子(ヴァイオリン)、北村朋幹(ピアノ)

■曲目 シェーンベルク：幻想曲 op. 47
レスピーギ：ヴァイオリンソナタ ロ短調 P110
武満徹：悲歌
R. シュトラウス：ヴァイオリンソナタ op. 18

<お問い合わせ> ザ・フェニックスホールチケットセンター
06-6363-7999(平日10:00~17:00、土日祝休)

2027
2/20±

レクチャーシリーズ37

山口周 講演会
「クラシック音楽で鍛える知性。
聴いて考える、考えて聴く！」



15:00開演 指定席	一般 ¥3,000 (友の会会員 ¥2,700) 税込 学生 (25歳以下) ¥1,000
----------------	---

クラシック音楽の魅力と、ビジネスの最前線を横断しながら思考の未来を探る。
そんな知的興奮に満ちた講演会を山口周氏を迎えて開催します。

- 出演 山口周(独立研究者、著作家、パブリックスピーカー)
 - プログラム 本公演はレクチャーのみです。(演奏はございません)
- ※講演時間約90分／休憩なし

友の会先行予約	2026 10/17± 10:00～
一般発売	2026 10/23金 10:00～

*各発売日初日は電話予約のみ。土曜日は特別営業。

2027
3/13±

アンサンブル・ア・ラ・カルト72

寺田悦子&渡邊規久雄 ピアノデュオ
オール・ブラームス・プログラム



15:00開演 指定席	一般 ¥4,000 (友の会会員 ¥3,600) 税込 学生 (25歳以下) ¥1,000
----------------	---

ブラームスの音楽には、深い哀愁や静かな憧れ、人生の機微を思わせる豊かな
陰影、人生を重ねたからこそ感じ取れる深い味わいがあります。
二人が紡ぐ一つの世界。ぜひじっくりとお楽しみください。

- 出演 寺田悦子、渡邊規久雄(ピアノ)
- 曲目 ブラームス:16のワルツ op.39【四手連弾】
ハンガリー舞曲集WoO.1 より【四手連弾】
2台のピアノのためのソナタ ヘ短調 op.34b

友の会先行予約	2026 10/17± 10:00～
一般発売	2026 10/23金 10:00～

*各発売日初日は電話予約のみ。土曜日は特別営業。

2027
2/6±

フェニックス・エヴォリューション・シリーズ116

SOM vocal ensemble #3
パウル・ヒンデミット 《ミサ》

14:00開演 自由席	一般前売 ¥4,000 (友の会会員 ¥3,600) 一般当日 ¥4,500 (友の会会員 ¥4,050) 学生前売(25歳以下) ¥2,000 学生当日(25歳以下) ¥2,500
-------------	--



まだ誰も聴いたことのない祈りへ。声が問い、そして未来を拓く。

- 出演 松原千振(指揮)
石堂藍、太田真紀、中川詩歩、昆野智佳子(ソプラノ)
佐々木ひろ子、田中由衣、矢守渚奈子(アルト)
田尻健、坂東達也、眞木喜規(テノール)
武久竜也、西角優、藤森徹(バス)
- 曲目 ヒンデミット:無伴奏混声合唱のための《ミサ》

友の会先行予約	2026 10/17± 10:00～
一般発売	2026 10/23金 10:00～

*各発売日初日は電話予約のみ。土曜日は特別営業。

特別
開催

共同主催 大阪大学中之島芸術センター×あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール

ボストリッジの『冬の旅』を読む

受付開始
2026 10/23金 10:00～

イアン・ボストリッジ+ジュリアス・ドレイクの『冬の旅』公演(2027年1月16日(土))に先駆けて、ボストリッジ自身による著作『シューベルトの「冬の旅」』(2017年、アルテスパブリッシング)をめぐる特別講座を開催します。ボストリッジは、現代最高のシューベルト歌手であると同時に、オックスフォードで歴史学の博士号を得た歴史学徒でもあり、この著作も『冬の旅』について縦横無尽に論じた本格的書物です。これを知ること、ボストリッジの歌う『冬の旅』に、これまでとは次元の違うものが聞こえてくるものと思われます。コンサートを楽しんでいただくための特別講座にぜひご参加ください。

第1回

冬の旅に出る

2027年1月5日(火) 18:30開始(18:00開場)

会場 大阪大学中之島芸術センター 3階 アート・スクエア内「スタジオ」
〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島4丁目3-53 TEL 06-6444-2100
京阪中之島線 中之島駅・渡辺橋駅 徒歩5分ほか

内容 『冬の旅』 第1曲「おやすみ」、第5曲「菩提樹」を中心に



第2回

旅の果てに

2027年1月13日(水) 18:30開始(18:00開場)

会場 あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール

内容 『冬の旅』第13曲「郵便馬車」、第24曲「라이어回し」を中心に



- 講師 伊東信宏(大阪大学中之島芸術センター特任教授)
松井拓史(大阪大学21世紀懷徳堂特任講師)
- 入場料 無料(要・申込み)
- 定員 先着100名 *お一人様1枚まで
- お申込み 上記のQRコードからお申込みください
- お問い合わせ ザ・フェニックスホール 06-6363-0211(平日9:00~17:00)



チケットのご予約、窓口でのご購入

ザ・フェニックスホール チケットセンター
(あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー8階)

TEL 06-6363-7999

営業時間:10:00~17:00 休業日:土・日・祝日

*土曜日が発売日の場合は、電話受付のみの特別営業となります。

ご予約後の手続き



ご来店でお引き取り

10日以内にご来店ください。
窓口では、キャッシュレス決済にご協力をお願いいたします。



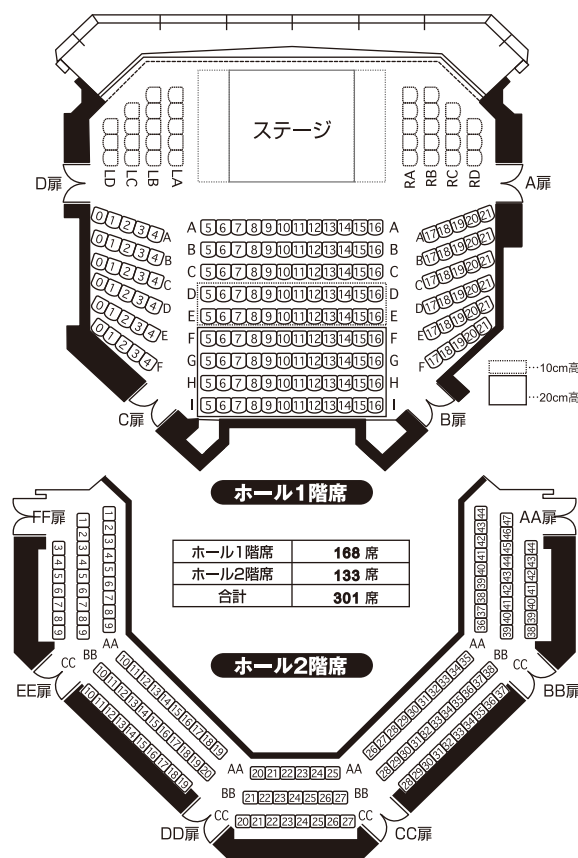
郵便局よりお振り込み

ご予約後、10日以内にお振込みください。

ご入金確認後、2週間程度でご自宅へお届け。

簡易書留で発送 送料470円と振込手数料はお客様ご負担となります。

口座番号 00940-0-95351 加入者名 ザ・フェニックスホール



チケットセンターからのお知らせ

2026年12月14日(月)、15日(火)は、チケットセンターおよびホール事務所を臨時休業させていただきます。何とぞご了承くださいませようお願い申し上げます。



2027年度フェニックス・エヴォリューション・シリーズ審査結果のお知らせ

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールは、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社が芸術文化支援活動の拠点として設置、運営している音楽ホールです。優れたアーティストによる自主企画公演を開催する一方で、発表の機会を探っておられるアーティストの方々に呼び掛け、個性溢れる公演にこのホールをご活用いただくことも重要な事業と位置付けています。「フェニックス・エヴォリューション・シリーズ」は、音楽家を含む一般の方々より広く公演企画を募集し、審査を経て選ばれた方々にホールを無料で提供しています。2027年度の企画募集では、国内外から24編のご応募をいただきました。去る2026年7月12日(日)に選考検討会を開催し、識者の方々のご意見を伺ったあと、さらにホールで選考を進めた結果、3編の企画を入選といたしました。

■ 選考アドバイザー(五十音順)

浅井佑太 様(京都大学人文科学研究所准教授) 林そよか 様(作曲家)
逢坂聖也 様(音楽ライター) 藤井沙織 様(産経新聞大阪本社編集局報道本部記者)
河合悠吾 様(音楽学研究)



© Ayane Shindo



© Maki Takagi



© Maki Takagi

【フェニックス・エヴォリューション・シリーズ117】
採用企画名／ 廣畑きらり サクソフォンリサイタル ～邦人作曲家の響き～
開催日／ 2027年5月15日(土)
出演／ 廣畑きらり(サクソフォン)、沖永紗織(ピアノ)

【フェニックス・エヴォリューション・シリーズ118】
採用企画名／ Electric Gestures
開催日／ 2027年7月6日(火)
出演／ 山田岳(クラシックギター、エレクトリックギター、MIDIギター)、牛山泰良(エレクトロニクス)

【フェニックス・エヴォリューション・シリーズ119】
採用企画名／ IV(アイヴィ) vol.8 ～10周年記念～「フランス×アメリカ 20世紀の奇跡」
開催日／ 2028年1月19日(水)
出演／ 飯野明日香、大須賀かおり、瀬川裕美子、安田結衣子(ピアノ)

Osaka Guitar Summer 2026 15回記念公演が盛会に終了しました！

毎夏恒例のギターの祭典Osaka Guitar Summerが15周年を迎え、盛会のうちに終了しました。プロデュースの福田進一さんに加え、共にギター界を牽引してきた荘村清志さん、若手の猪居亜美さん、徳永真一郎さんを迎えて開催しました。今回、福田さんと荘村さんのために書き下ろされた大坪純平さんの「アムーリの祝宴」では大いに盛り上がり、ホールが2019年にギターアンサンプルのために委嘱した林そよかさんの「4つの海の物語」を4人で演奏して華やかに締めくくりました。

前日のマスタークラスでは、将来が有望な坂上颯亮さんと小林玄司さんに登場いただき、熱量の高いレッスンが繰り広げられました。

そして、修了コンサートでは、アンサンプルワークショップ、マスタークラスの受講生、アンサンプルワークショップ講師の岩崎慎一さんと井谷光明さんの演奏、さらに上野芽実さんのゲスト演奏が行われ、例年より賑やかな開催となりました。

今年のギターアンサンプルは、ホールが委嘱した藤村亘さんの新曲『組曲「想奏」～ギター四重奏のための』に取り組みました。講師による指導の元、総勢18名で世界初演を成功させました。



写真 © 松浦隆

アンサンプルワークショップ課題曲の楽譜を無料でダウンロードいただけます！

ダウンロード期間：2026年9月～2027年2月末(予定)

作曲者の藤村亘さんのご厚意により、ホールホームページ上において、楽譜を期間限定で無料公開いたします。この機会にダウンロードいただき、個人やグループの演奏、レッスン、発表会、コンサートなどで演奏してみてください。この楽曲が皆様に愛され、広がっていくことを願っています。



あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛・協力公演のご案内

公演により割引枚数などに制限があります。ご購入時にお問合わせください。

詳細は、公演チラシかホールホームページでご確認ください



協賛公演

古武道忘年会
「師走の協奏曲(コンチェルト)」Vol.13
2026年12月19日(土)13:30開演 指定席
S席一般¥7,700(友の会会員¥6,930)
A席一般¥5,500(友の会会員¥4,950) **発売中**
高校生以下(S席・A席共通) ¥2,200
古川展生(チェロ)、妹尾武(ピアノ)、藤原道山(尺八)



トリオジャパン2027 ニューイヤーコンサート
2027年1月4日(月)14:00開演 指定席 **調整中**
プレミアムシート¥10,000(友の会会員価格未定)
A席¥6,500(友の会会員価格未定)
石田泰尚(ヴァイオリン)、西谷牧人(チェロ)、佐藤卓史(ピアノ)



辻本玲チェロリサイタル
2027年1月27日(水)19:00開演 指定席 **発売中**
一般前売¥4,000(友の会会員¥3,600)
一般当日¥4,500(友の会会員¥4,050)
学生前売¥1,500 学生当日¥2,000
辻本玲(チェロ)、津田裕也(ピアノ)



協力公演

ピアノ・ナイト!! 2026
2026年11月23日(月・祝)17:00開演 自由席
前売¥4,500(友の会会員¥4,000)
当日¥5,000(友の会会員¥4,500) **発売中**

エンキ(中国琵琶)、浅井みどり、野瀬道子、高橋小牧、竹中真、一ノ瀬夏美(ピアノ)、釋伸司(ヴァイオリン)、大町剛、山岸孝教(チェロ)、安藤史子(フルート)、亀井貴幸(ギター)

“KCM Concert at The Phoenix Hall, Osaka”
山根一仁 J.S.バッハ
無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ&パルティータ全曲演奏会
2026年12月20日(日)16:00開演 指定席
¥5,500(友の会会員¥4,900) ※友の会割引は前売のみ、限定数。
山根一仁(ヴァイオリン) **発売中**



“KCM Concert at The Phoenix Hall, Osaka”
アヴォス・アンサンプルのドヴォルジャーク
2027年1月11日(月・祝)14:00開演 指定席
¥5,000(友の会会員¥4,500) ※友の会割引は前売のみ、限定数。
アヴォス・アンサンプル(ピアノ、ヴァイオリン、チェロ/イタリア) ゲスト出演：高木和弘(ヴァイオリン)、田中佑子(ヴィオラ) **10/15(木)発売**



猪居亜美 CLASSIC×ROCK
The World of RITCHIE BLACKMORE
2027年2月7日(日)14:00開演 指定席 **調整中**
料金未定
猪居亜美(ギター)



渋谷慶一郎 ピアノソロ・コンサート 2026
POLA presents
Keiichiro Shibuya Playing Piano Threshold
2026年12月22日(火)19:00開演 指定席
SS席¥11,000(友の会会員¥10,000)
S席¥7,700(友の会会員¥7,000) **発売中**
A席¥5,500(友の会会員¥5,000)



高木凜々子 ヴァイオリン・リサイタル
2027年1月20日(水)19:00開演 指定席 **発売中**
¥5,000(友の会会員¥4,500)
高木凜々子(ヴァイオリン)、鈴木慎崇(ピアノ)



宮川春菜 Guitar Concert 2027“Destino”
2027年2月13日(土)13:30開演 指定席
前売¥4,000(友の会会員¥3,600)
当日¥4,500(友の会会員¥4,050) **10/19(月)発売**
宮川春菜(ギター)



CHRISTMAS CONCERT 2026
2026年12月5日(土)15:00開演 自由席 **発売中**
前売¥4,000(友の会会員¥3,500)
当日¥4,500(友の会会員¥4,000)

前田尚代、森本まどか(ソプラノ)、井上晶子(ヴァイオリン)、藤溪優子、宇田津典子、藤本真基子、平石那月、原之村聖子、林朝子(ピアノ)

非破壊検査ニューイヤーコンサート2027春のアルモニア

2027年1月8日(金)19:00開演 指定席
S席(1階席)¥10,000(友の会会員¥9,000)
A席(2階席)¥7,000(友の会会員¥6,300)
※1階席は丸テーブルでワインを飲みながらお楽しみいただけます。2階席は開演前と休憩時にロビーでワインを楽しんでいただけます。
※S席のご購入はお1人様4枚まで

発売日
友の会先行予約 10/26(月)10:00～
一般発売 10/29(木)10:00～
モレーナ・サンチェス・マストランジェロ(ソプラノ)、宮里直樹(テノール)、今井俊輔(バリトン)、アヴォス・アンサンプル(ピアノトリオ)

シューベルトについてジジクに聞きそびれたこと： ボストリッジの『冬の旅』

最初に白状してしまうと、筆者はドイツ・リートというものが苦手だ。歳と共にどんどん苦手になっていく。何より歌詞がロマンチック過ぎてやってられない。「でも君が「愛している」という時／僕は激しく泣く」（シューマン『詩人の恋』第4曲）と言われても「なんで泣かんなんねん！」というようなツッコミしか出てこない（いや良い音楽なんだけれど）。

ただシューベルトの歌曲だけはそうも言われてられないと、これも歳と共に思うようになった。「月も現れ、／その後から星も出た、／そして僕たちは仲よく一緒に／銀色の水鏡に見入っていた。」（シューベルト『美しき水車小屋の娘』第10曲）これだって一見若い恋人たちが並んで川面を見ていたというロマンチックな話のように思えるけれど、その前後をよく見てみるととても怖い。この川は、もう少し後の連では若者を川底へとさりげなく誘う。なぜ恋人と幸せに並んでいる若者が川底に誘われなくてはならないのか。そして実際に曲の最後では若者はこの川底に横たわって亡くなってしまう。「立ち去りなさい、邪悪な娘よ／おまえの影が彼を目覚めさせないように」（『美しき水車小屋の娘』第20曲終曲）若者の恋は実らず、川に身を投げて死んでしまったのだ。音楽はあくまでも優しく「おやすみ」を告げる子守唄。でもこれは川が若者に向けて歌う弔いの歌なのだ。第10曲の月は、第20曲の最後では、若者が沈む川面を照らす「満月」となって現れる。こういうところがシューベルト（と歌詞を書いたミュラー）の怖さだ。

そもそも若者が恋人と一緒に川面を見入った、という第10曲だってよくよく見ると本当にそんな事実があったのか、という疑いも出てくる。並んで一緒に川を眺める、というのは若者の一方的な思い込みだったのでは

ないか。あるいはただの願望だったのでは？ そうするとこれは極めて現代的な「ストーリー」とその悲劇的結末の話のようにも見てくる。だいたいこの「美しき水車小屋の娘」は実在したのか？ 全部若者が作り出した妄想だったのではないか。シューベルトの作品はそんなことまで考えさせる。

現代最高のシューベルト歌手の一人、イアン・ボストリッジは、オックスフォード大学で博士号までとった本格的な歴史学者でもあるのだが、彼の『シューベルトの「冬の旅」』（2017年、アルテスパブリッシング）という本には、この種の話が色々出てくる。その最たるものは、シューベルトの『冬の旅』が、1942年のスターリングラード攻防とその冬の撤退を余儀なくされたドイツ軍兵士達にとって、どんなふうに響いたか、という話（同書第3章）である。もちろんシューベルトやミュラーは、第二次大戦時のドイツ軍兵士の頭の中のことなど知る由もなかった。彼らが作ったのはあまり定かではない理由によって恋人の家を出て、一人で旅を続ける若者の歌だ。だが、ドイツ軍兵士にとっては、「よそ者として私はここにきて、よそ者としてここを去る」（『冬の旅』冒頭の歌詞）というこの歌がどれほど切実に響いたかということをボストリッジは丁寧に説いてゆく。

もともとこの話は、左翼系思想家スラヴォイ・ジジクの「シューベルトの聴き手としてのレーニン」という論考を展開したものなのだが、ボストリッジは切れすぎるナイフを振りかざすようなジジクの物騒な議論を冷静に腑分けしながら、見事に読み解いてみせる。そこにはドイツ・ロマン派とナチス・ドイツの暴力の間には明らかな親和力がある、というようなことが書いてある。やっぱり怖い。

essay



伊東信宏（いとう・のぶひろ）
音楽学

京都市生まれ。大阪大学文学部、同大学院を経て、ハンガリー、リスト音楽大学などに留学。大阪教育大学助教授、大阪大学大学院教授（音楽学）などを経て、現在、同中之島芸術センター特任教授。著書に『バルトーク』（中公新書、1997年）、『中東欧音楽の回路』（岩波書店、2009年、サントリー学芸賞）、『東欧音楽夜話』（音楽之友社、2021年）など。シューベルトについては『美しき水車小屋の娘』とは誰か？』（『アリーナ』所収）などの論文がある。

公演情報

イアン・ボストリッジ「冬の旅」公演に
先駆けて、特別講座を開催します！

- ①1/5(火) 大阪大学中之島芸術センター
- ②1/13(水) あいおいニッセイ同和損保
ザ・フェニックスホール

*詳細はP4をご覧ください

